

嬉野医療センターを受診された患者さまへ

研究情報公開について

通常、臨床研究を実施する際には、文章もしくは口頭で説明・同意を行い実施します。臨床研究のうち、患者さまへの侵襲や介入もなく診療情報等の情報のみを用いた研究については、国が定めた指針に基づき「対象となる患者さまのお一人ずつから直接同意を得る必要はありません」が、研究の目的を含めて、研究の実施についての情報を公開し、さらに拒否の機会を保障することが必要です。

当院では下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象に該当する可能性がある方で、診療情報等を研究目的に利用、または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。

研究課題名	第76回 日本消化器外科学会総会 「右側結腸癌術後の縫合不全危険因子の検討」
研究責任者(所属名)	和田 英雄 (消化器外科 医長)
本研究の目的	大腸癌術後の縫合不全は、術後短期長期成績に影響を及ぼす重篤な合併症です。また術前併存症は、縫合不全の危険因子の一つといわれています。Charlson comorbidity index (以下、CCI) は、併存疾患をスコア化することで各種疾患の予後予測に有用な指標として報告されてきました。 今回われわれは、右側結腸癌切除例における術後縫合不全の危険因子と CCI の関連性について検討します。
調査データの該当期間	2016年4月から2020年8月まで
研究の方法 (使用する試料等)	長崎大学腫瘍外科および関連6施設(当院を含む)で、2016年4月から2020年8月までに施行された右側結腸癌切除症例593例を対象とした。これを縫合不全群(Leak群: 以下、L群、n=28)と非縫合不全群(Control群: 以下、C群、n=565)の2群に分類し、臨床病理学的因子(年齢、性別、BMI、併存疾患、臨床学的進行度、病理学的進行度、手術時間、出血量、術後合併症、在院日数など)、および縫合不全に関する危険因子(CCI、遠隔転移、年齢、BMI、全身状態、手術時間、出血量、臨床的進行度など)を後方視的に検討します。
個人情報の取り扱い	利用する情報から、氏名や住所等の患者様を直接特定できる個人情報は削除した状態で取り扱われます。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は一切利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話: 0954-43-1120 (代表) 担当者: 管理課長
備考	